

テーマ：有明テニスの森の整備について
～東京 2020 大会後工事における東レ・楽天ＯＰの開催～

所 属：財務局建築保全部オリンピック・パラリンピック施設整備課

1. はじめに

有明テニスの森公園は、1983 年の開設以来、多くの方々に親しまれてきた国内有数のテニス競技施設である。東京 2020 大会前の工事では、オリンピックのテニス会場、パラリンピックの車いすテニス会場として使用するための整備を行った。無事に大会を終え、現在は、国内外のテニス大会や都民の一般利用の利便性・快適性を向上させるための工事を行っている。本発表では、大会後の工事を行いながら大規模な国際大会を開催したことを中心に、大会前後の施設整備の経過や概要を述べる。

2. 施設の整備の経過及び概要

■施設の整備の経過



図 1 東京 2020 大会前の航空写真（令和 2 年 2 月）



図 2 東京 2020 大会後工事完了時のイメージ図

○大会前工事について

東京 2020 大会開催に向けて、クラブハウス・インドアコート、ショーコート、有明コロシアム等の新築、改修及び屋外テニスコート等の整備を行った。平成 29 年 10 月に工事契約し、当初は令和元年 7 月にしゅん功予定であったが、工事途中に受注者のうち 1 社が破産したことに伴い、一部工事内容を見直し、残工事の契約を新規に行うなど、大きな困難を乗り越え、令和 2 年 3 月にしゅん功した。

○大会後工事について

大会後工事は、主に屋外テニスコートと外構工事が中心である。当初の計画では 3 ヶ年債務で工事を行う計画であったが、その後の関係者との調整において早期に再開業を行うこととなったため、4 本の複数工事に分割発注し、並行工事とすることで全体工期を短縮

し、令和4年度中に完了する工程とした。工事期間中の施設利用については、有明コロシアム、クラブハウス・インドアコート、ショーコートにおいて、都民の一般利用を行っている。また、地元要望の敷地内南北通路（以下、「シンボルロード」という。）については、施設利用者及び歩行者の安全確保を図るため、施設管理者等関係者との綿密な協議が必須となっている。

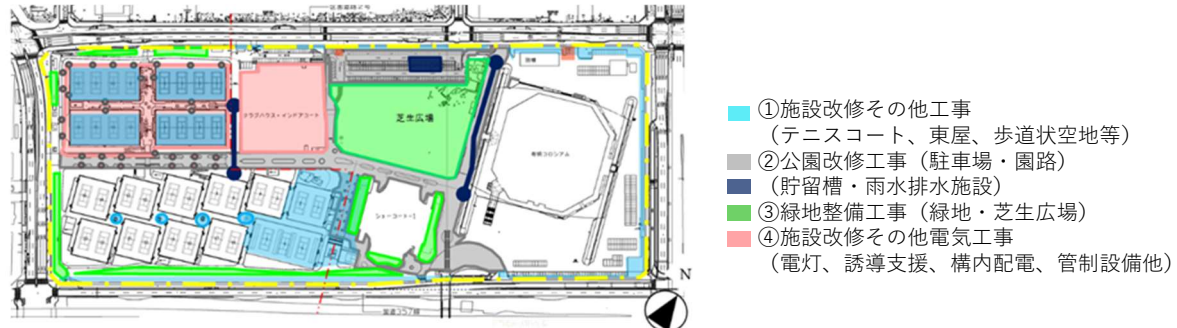


図3 大会後工事の主な内容

■施設及び整備の概要

○施設場所

住所：東京都江東区有明二丁目2番22号、敷地面積：約163,068㎡

○有明コロシアムの改修（大会前工事）

建設後約30年が経過しており、可動屋根機構、電気、空調、給水衛生設備も含め全面的な改修を行った。併せて歩行者のアクセス向上のためのデッキ棟や選手控室等として利用する別棟を整備した。

○ショーコートの新築（大会前工事）

約3,000人の観客席を有する屋外施設で、日除け屋根、競技用照明、大型映像装置などを設け、テニスを観戦しやすい施設としている。

○クラブハウスの改築とインドアコートの新築

屋内コート8面を有し、アーチ型の大空間架構に国産木材を使用しており、都有施設としては初となる木材のプロジェクト認証※を取得した。

（※プロジェクト認証：適正に管理された森林から切り出した樹木を原料とし、他の材料と混じることのない加工・流通を経た木材で作られたことを、認証機関がプロジェクトごとに審査し、認証する仕組み。）

○屋外コートの改修（大会前及び大会後工事）

国際大会を開催することが可能なセミハードコート39面、照明等の整備を行った。東京2020大会時の屋外コートは、1ブロック1面ずつ配置する計画としており、東京2020大会終了後、組織委員会において1面を2面へ復旧した。さらに、大会後の工事においてセミハードコート5面、砂入り人工芝コート16面の整備を行い、完了時には、一連の工事の前後で変わらず公園全体で従前の49面を確保する施設となる。

○外構の改修（大会前及び大会後工事）

園路・広場・東屋・駐車場・緑化・雨水貯留槽、照明・音響設備等の整備を行う。

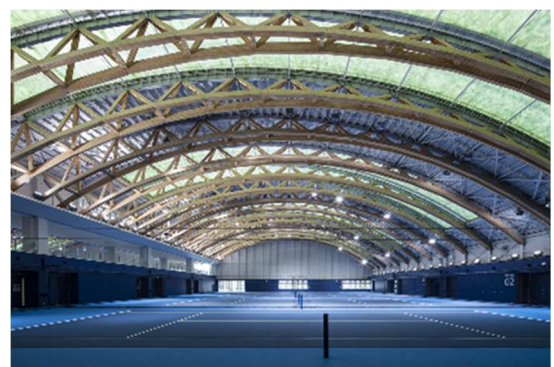


図4 インドアコート（プロジェクト認証）

3. 東レ パン パシフィックオープンテニス 2022・楽天オープン 2022 の開催について

■大会の概要、開催の経緯等

東レ（女子）、楽天（男子、車いす）ともに日本最高峰の国際公式戦で、歴代優勝者には伊達公子、大坂なおみ、マリア・シャラポア、ロジャー・フェデラー、錦織圭等のスター選手が名を連ね、国際的にも大きな注目を集める大会である。

○大会期間 東レ 令和4年9月17日～25日、楽天 令和4年10月1日～9日

（大会前後に大会主催者による設営の期間あり）

コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となった両大会は、「なんとしても有明テニスの森で行いたい」という大会関係者の強い熱意と大きな期待があった。一方で工期の制約により工事の中断ができないことから、関係者間で調整を重ね、工事エリア外で一般開放している有明コロシアム・インドアコート・ショーコートを使用することと、大会開催と工事が両立できる施工条件を付して工事発注を行った。

■大会開催にあたっての課題

○日本テニス協会からの新たな要望

工事着手後、(公財)日本テニス協会（以下、「テニス協会」という。）等と調整を開始すると、工事発注時点では表面化していなかった要望がいくつも寄せられた。①有明コロシアム、インドアコート、ショーコートの他に工事エリア内の屋外コートを練習コートして利用したい②工事エリア内に選手やスタッフ等関係者動線を確保したい③報道関係者の通信ケーブルを工事エリア内に設置したい等の様々な調整事項が、大会準備が具体化するに伴い五月雨式に寄せられ、限られた時間の中で迅速に調整を行わなければならなかった。

○確実な安全確保

大会スタッフ、観客、選手（外国人多数）動線とシンボルロードの歩行者動線と工事車両動線が交錯しないように、工事エリアと大会エリアで分けることが重要であった。工事エリアは、敷地全域に渡っており、また、大型車両の出入口や資材置き場が限定されているため、施工計画の検討に苦慮した。

○適正な法令手続き

本施設は、建築基準法の仮使用認定を取得し、東京2020大会や一部施設の一般開放を行っている。大会期間中は、大会の状況と工事の状況を想定した手続きが必要となった。

■課題への対応

○生活文化スポーツ局等との定期連絡会の実施

大会主催者等であるテニス協会、生文ス局、財務局で会議体を設け、お互いの作業内容やスケジュールの調整を行った。都の工事は外構工事の特性上天候に左右され、日単位の作業エリアや内容の確定が難しい一方で、大会主催者側も協力会社との関係上大会直前にならないと細部が詰められなかった。そのため、様々なシチュエーションを想定した施設利用のルールを作り、その範囲内で大会の運営計画を策定してもらう方針とした。最終的には、協議によって定めたルールを明文化して文書を作り、大会主催者と内容に合意した。その内容について、工事受注者へ示し、協力を要請した。

○工事工程の見直し及び施設管理者との連携

協議を進める中で、有明コロシアム周辺は、大型ビジョン設置や観客の飲食スペース、チケットブース、VIP対応等で広範囲を利用することが明らかになった。そのため、安全面を考慮し、歩道状空地や駐車場出入口の工事時期を見直し、有明コロシアム周辺の施工を避けるように努めた。また、観客や選手動線の仮設計画については、施設管理者の東京港埠頭㈱から過去の大会開催の経験を踏まえた助言を得ながら検討を行った。

○仮使用認定の変更

工事エリアや大会運営に必要なスペース、シンボルロードの歩行者動線等について、大

会開催中だけでなく、設営準備や大会転換時、開催後撤収等の5つの期間に分けて使用方法を検討した。各期間について、安全区画や車両、人の動線、交通誘導員の配置等の対応を協議し、仮使用認定の変更申請書を生文ス局から建築指導課に提出した。

4. 準備や大会当日の様子

■シンボルロードの切り直し

敷地中央を南北に通るシンボルロードは、国際展示場駅からコロシアンブリッジを経て敷地北側の高層マンション群をつなぐ地元住民の通勤・通学等の主要動線である。大会後工事では舗装や植栽、埋設管等の工事を行うこととなり、歩行者の通行を確保するために切り回しを繰り返しながら工事を進めている。大会の観客に関しては、混雑の集中を回避するため、住民動線と観客動線を分ける工夫を行った。

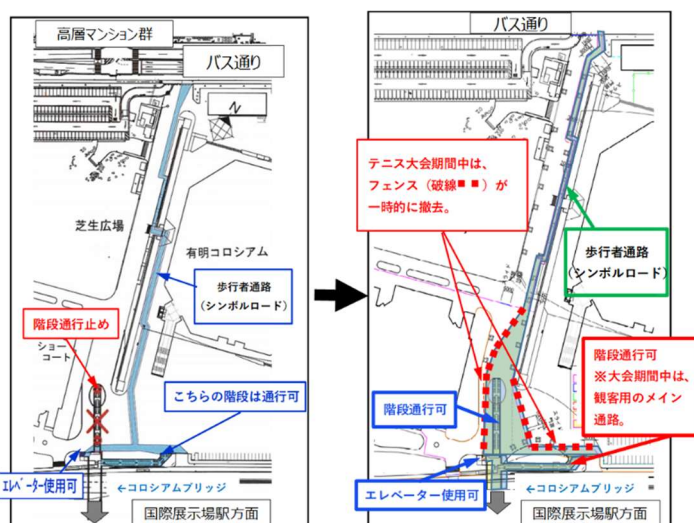


図5 シンボルロードの切替え

■ヒヤリハットへの迅速な対応

大会時には、予期せぬ事態がいくつか発生したが、万全の緊急連絡体制のもと休日や夜間においても迅速に対応し、事故発生を未然に防ぐことができた。例えば、外国人選手が安全区画を乗り越え工事エリア内を歩いてしまう事態や、大阪なおみ選手の練習時に多くのメディア関係者が屋外コートで撮影をはじめるとの状況が発生した。これらに対し、英語表記による注意喚起の掲示を増設する、大会主催者への申し入れをその都度繰り返し行う等担当監督員の迅速な対応により、改善された。

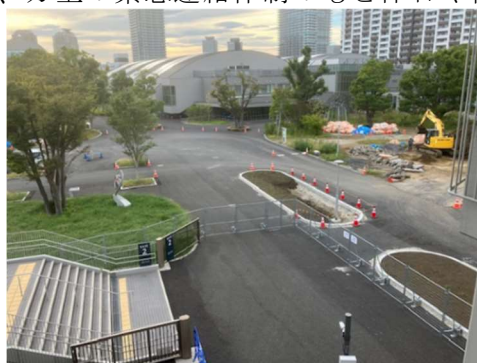


図6 安全区画の様子

■大会の様子

世界のトッププロのプレーが見られるということで、連日多くのテニスファンが集まった。

工事期間中の開催で、使用エリアや敷地内の移動に制限がある中でも、有明コロシアム周辺には、大型ビジョンとともにキッチンカーやビールバー、イベントブース等が出店し、観客が楽しめるような会場作りの工夫が多くなされていた。大会の開催に携わることで、スポーツの振興には、競技団体やスポンサー企業との協力が不可欠であることを強く感じた。



図7 当日のセンターコートの様子

5. おわりに

両大会は、参加選手や観客から大きな苦情もなく成功裏に終えることができ、テニス協会から感謝のお言葉をいただいた。引き続き、東京 2020 大会競技施設の整備完了に向けて、年度末のしゅん功を目指し、オリンピック・パラリンピック施設整備課の総力を挙げて取り組んでいく。